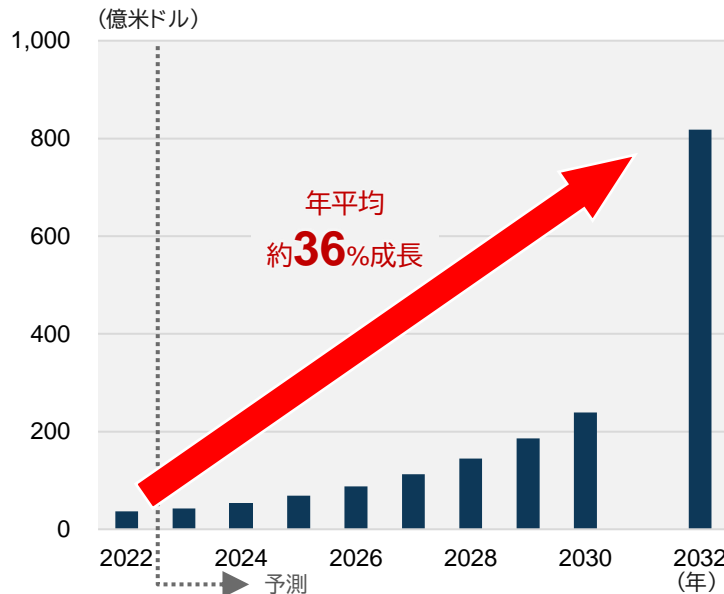


- ロボティック・プロセス・オートメーション(以下、RPA、**Robotic Process Automation**)とは、ロボットによる業務自動化のことです。
- 人が日常的にパソコン上で繰り返し行う業務(作業)を自動化することに加え、近年では、人のみに対応可能と想定されていた業務を、AI(人工知能)などを活用することにより、代行・代替することができるようになりました。
- ヒューマンエラーがなく、複数チェックが不要となり、品質を維持したまま作業時間が削減されるだけでなく、24時間作業し続けることも可能です。

世界のRPA市場の推移

- 労働人口が減少傾向にある中、業務の自動化ニーズは拡大しており、金融や商社、サービス、流通、小売、インフラ、製造、不動産といった多様な業種のほか、自治体でも導入されています。

2022年～2032年(2023年以降は予測)



出所: Precedence Research; GlobeNewswire

※上記は過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。

※公開情報など信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。情報の正確性・完全性について当社が保証するものではありません。

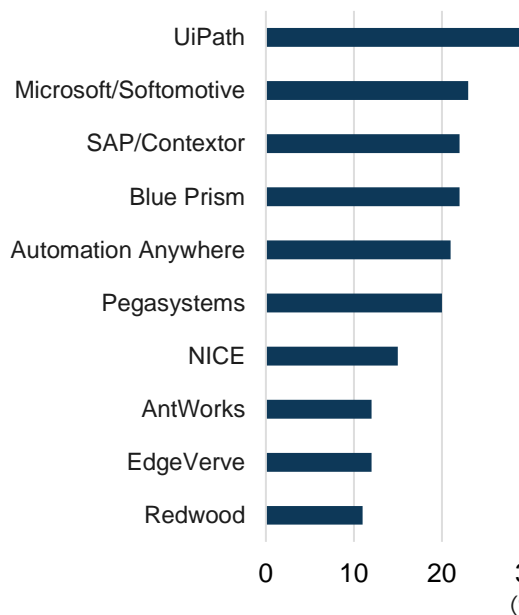
ページ記載の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、弊社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、流動性のある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

世界の大手企業が主に利用しているRPAツール (2020年)

- RPAは、人と協働することにより業務を分担し、人と共存することにより効率化を図るなど、企業活動にさまざまなインパクトを与えています。

グローバル2000(フォーブス誌が売上高、利益、資産、時価総額を基準にランキングした世界のトップ公開企業)に対するアンケート調査に基づく



出所: Synergy Research Group

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

UiPath (UiPath(米国)が開発)

- 2005年創業のUiPathは100カ国以上で事業展開されています。主に開発、実行、管理のラインナップがあり、自由度の高いカスタマイズ性を備え、分析ツールにより測定を行うことで、効果的な運用をサポートしています。
- 2020年にAI、2023年に生成AIを組み込み、自然言語を通じた素早い作業の自動化を実現させています。

Softomotive (Microsoft(米国)が提供)

- 2020年にMicrosoftに買収され、現在は同社のRPAツール「Power Automate」に引き継がれました。
- Softomotiveは、Windows上での作業自動化や、サーバベースでの業務アプリケーションなどの作業自動化を得意としています。

Contextor (SAP(ドイツ)が提供)

- 2018年にSAPに買収され、2019年からSAP Intelligent RPAとして提供されています。
- SAPが提供する機械学習やチャットボットとの連携で、AIを駆使した自動化を実現させています。

Blue Prism (Blue Prism(英国)が開発)

- 2001年に設立され、対象領域はAIを用いた非定型業務や重要業務まで拡大しています。
- 同社RPAは、当初、金融機関のバックオフィス業務で利用されたことからセキュリティ対策は高く、また、実行中にエラーが発生しても、自動で再実行する機能があります。